

「クラインガルテン長万部の森」の大山桜の育樹・その2

1 はじめに

長万部町字栄原にある「クラインガルテン長万部の森」は、一般社団法人100年の森づくり長万部（小柴茂理事長）の所有の森林で、ブナ、ミズナラなど温帯北部の代表的な樹種が見られる豊かな森です。標高70m程度でブナとミズナラが混生するこの森は、渡島半島北部黒松内低地帯の噴火湾側に位置し、春は長く、夏は南から冷たい風と海霧が流れ込む冷涼な気候によるものと思われます。

2022年（令和4年）7月5日に、この森にある幹周243cmの大山桜について、昨年に引き続き、土壌改良を内容とする育樹を行ったので報告します。

今回の育樹に先立ち、2022年（令和4年）5月4日に、開花状況の確認を行っています。2021年の状況とさほど変わってはいないと思われました。山桜と同様に花と葉が同時に展開し、はじめは茶色の葉ということも共通している大山桜ですが、花の紅色の濃さが際立つ違いとして認められました。

一方、「クラインガルテン長万部の森」の研修施設の横に立っているブナを見ると、ミズナラとは違って、開葉が始まっていました。



大山桜の開花状況 2022.05.04



大山桜の開花状況 2022.05.04



開葉し始めたブナ 2022.05.04

2 土壤改良

今回の参加者は、長万部町に在住する高野亮三氏と当社樹木医木戸口和裕の計2名です。

育樹は、昨年（2021年）5月20日と11月8日の計2回行い、今回が3回目となります。今回は、根の区域へ穴あけ器により、エアレーションし、昨年実施した縦穴式土壤改良法施工地付近へ、砂川堆肥1袋（砂川レイクサイドの会から寄贈されたもの）を散布し、最後にフルボ酸の固形植物活性剤「フジミン Forest」を散布しています。

昨年の土壤改良が効いているせいか、大山桜の葉量が多いように感じました。



堆肥の散布 2022.07.05



縦穴式土壤改良法施工地 2022.07.05



大山桜 2022.07.05



大山桜の葉 2022.07.05

3 終わりに

この大山桜は、古木とは言えず、一部「こうやく病」が見られる幹があったものの、樹勢が衰えていた訳ではありません。樹勢が弱る前に、先手となる、いわば「予防」の「プロケア」を行っているものです。

名木は古木であることが多いので、内部腐朽が進んだ樹木を治療することがほとんどですが、名木又は名木となりうる樹木を管理する上では、人間の歯の予防と同様に、「予防」の措置を講じておくことが重要ではないかと思われます。

そして、本来、「育樹」とは、症状が悪化した時に行う対処療法的なものだけではなく、「予防」のための「プロケア」を含んだものでもあると思うからです。